



SPECIAL REPORT

安心・安全な出産に向けた トータルなサポート。

地域周産期母子医療センター特集

多職種力を結集し
お母さんと赤ちゃんを守り抜く。

CHAPTER 01 思いがけない病気がから ハイリスク出産に。

初秋のある日、岡崎市民病院に妊婦が救急搬送されてきた。妊娠30週、自宅で突然の出血、激しい腹部の痛みも伴っていた。すぐさま地域周産期母子医療センターのスタッフが対応にあたり、超音波検査などから子宮内膜炎の増悪による出血と診断した。子宮内膜炎とは子宮の内側を覆う子宮内膜に似た組織が子宮の内腔以外の場所までできてしまう病気。妊娠中に適切な治療を行わないとこうした緊急事態を招くことがあるという。出血が多いため、このままでは母子ともに命の危険があり、赤ちゃんを急いで取り出さなくてはならない。産科医と麻酔科医、手術室の看護師、助産師などによる連携によって緊急帝王切開が行われ、無事に1400gの赤ちゃんが生まれた。その場に立ち会っていた小児科医は即座に赤ちゃんに人工呼吸器を装着し、新生児集中治療室(NICU)へ運んだ。一方、母体は止血を施した上でICU(集中管理室)で全身状態を整え、子宮内膜炎については保存的治療を行っていることになった。

この事例を振り返り、地域周産期母子医療センターの後藤真紀センター長は、母子ともに無事で本当に安堵しました。このケースのように、当センターでは、産科部門と新生児部門、各診療科が緊密に連携し、

CHAPTER 02 分娩のリスクを低減するため 妊娠中の検査に力を注ぐ。

妊娠・出産は安全なものと思われがちだが、実際はさまざまな危険を伴う。緊急対応で最善を尽くしても、母子の命を救えないケースがあるのも事実だ。では、そうしたリスクを低減し、安心・安全な出産に繋げるにはどうすればいいだろう。「やはり早い段階でリスクを発見して、周到に準備していくことが必要です」と、後藤は言う。「たとえば、冒頭の子宮内膜炎のほか、卵巣腫瘍、高血圧や糖尿病、内分泌甲状腺疾患などの慢性疾患をもつ人は、少なからず分娩リスクを抱えています。また、前回の分娩で出血が多かったり、胎盤トラブルのあった人もリスクが高くなります。こうした妊婦さんに対して、出産に向けて適切なリスクコントロールを行っていくとともに、リスクに応じて必要な手術や薬物療法を提供していくことが必要です」(後藤)。

妊娠中にリスクを早期発見するには、出

24時間体制であらゆるハイリスク出産に対応しています」と話し、次のように続けた。「また、当センターでは出産だけでなく、妊娠前から妊娠中、出産後まで継続して、妊婦と赤ちゃんの健康を守るために力を注いでいます。妊娠前では、プレコンセプションケア(将来の妊娠を考えながら自分たちの生活や健康に向き合うこと)に取り組んでいるほか、不妊生殖医療にも力を入れていきます。妊娠中はリスクコントロールを行い、出産後もインナーコンセプションケア(産後から次の妊娠までの健康管理)を行っています。これらのサポートには、助産師、看護師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフなど、多様な職種が関わり、安心・安全な妊娠・出産となるように、出産、産後のケアまでトータルに支えられるのが、当センターの最大の強みだと思います」。

COLUMN

- 産後女性の死因第一位は自殺で、その原因は「産後うつ」と言われている。
- その深刻な課題に対応するために、岡崎市民病院ではメンタルケアに注力。出産後、不安の強い母親には臨床心理士が必要なケアを提供するほか、母性看護専門看護師や助産師が中心となり、母子の愛着形成を促すケアにも力を注いでいる。さらに、ソーシャルワーカーや行政との連携を深め、地域全体で「産後うつ」の予防や対策に取り組んでいる。

BACKSTAGE

限られた医療資源を最適化し
地域の周産期医療を守る。

●医師の過酷な労働環境や医療訴訟が多いことなどを背景に、全国的に産婦人科の医師不足が問題となっている。その状況はここ岡崎市でも同様で、産婦人科を志す若い医師は減少しているのが実情だ。

●地域の周産期医療を守るには、こうした限られた医療資源を最適化するように地域の医療機関が協力し合うことが何よりも重要である。その連携力こそが、安心・安全な妊娠・出産を支える鍵を握っているのではないだろうか。



生前の検査が重要である。同院ですでに産婦人科外来で遺伝相談を実施し、出生前のNIPT(無侵襲的出生前医学的検査)や羊水検査をはじめとした出生前の遺伝学的検査などを行っているが、今後さらに、その体制を一步進めて、妊婦の検診や胎児の超音波検査も含めたトータルなスクリーニング検査体制の構築をめざしている。「不安のある方は妊娠中に一度受診していただき、ご本人の健康状態から胎児の状態まで細かく診て、必要なカウンセリングを行いたいと考えています。問題がある場合は当院で出産までサポートし、問題がない場合は地域のクリニックで安心して出産していただく。当院と地域のクリニックが役割分担をしながら連携することで、ハイリスクの妊婦さんを安全な出産に導いていきたいと考えています」(後藤)。すべては、地域のお母さんと赤ちゃんを守り抜くために。その揺るぎない使命感のもと、同院は地域医療連携と周産期医療の充実にこれからも力を注いでいこうとしている。